

中野 寛之 議員

(一問一答方式)



- ① J Rの利用促進について
- ② 市内高校進学者への支援策について
- ③ タクシー不足問題について
- ④ 市立保育施設の「荷物多すぎ問題」について
- ⑤ 大洲イノベーションセンターについて
- ⑥ 暑さ対策について

市内高等学校の魅力化支援について

問 県立学校の魅力化向上について、市町が地域と一体になって取り組む姿勢が問われている。学校側からの市への要望に対して、市としての取組はどうなっているのかを伺いたい。

答 昨年3月に愛媛県教育委員会から県立学校振興計画が示されたことを受け、本市においても大洲高校（新校）魅力化応援に関する懇談会を開催し、大洲高校、大洲農業高校それぞれの現状をお伺いし、市議会、農林水産業、製造業、金融サービス、地域教育等の関係者で意見交換を行い、その中で大洲高校から要望をいただいています。

「中学校の生徒や保護者からの意見を高校運営に生かす」ことについては、各中学校において、近隣の高校の先生を招いて実施する進路説明会において、高校側の説明を受けるだけでなく、質疑応答の時間を設けるなどして、生徒や保護者のニーズを把握できるよう工夫されており、また各高校で実施される体験入学や見学会では、現役高校生が中学生の質問に答えたり、高校生から中学生へアドバイスを送る機会を設けたりするなど、様々な企画で高校の魅力を発信しています。

「部活動の地域移行について、土曜日、日曜日の活動に高校生を参加させてもらいたい」ことについては、現在、地域移行に向けた実証実験中であります。カヌークラブにおいて、大洲高校カヌー部の生徒と一緒に、小・中学生の皆さんも活動をしているという状況です。

「大洲高校と大洲農業高校との生徒の移動への協力」に関する要望については、現在、県教育委員会

において、農業関係の授業実習について移動時間のロスがないよう、授業時間割の編成を検討していますので、統合後の対応状況を確認しながら市の対応を考えていきたいと考えているところです。

日本版ライドシェアについて

問 日本版ライドシェアにおいて、自家用有償旅客運送制度や、観光DMOを絡めた自家用車活用事業は大洲市でも活用できると感じている。大洲市でも実証実験に取り組んでいく考えはないか伺いたい。

答 本市では、地域住民向けのデマンド型交通のうち、自家用車を活用して有償で運送を行う自家用有償旅客運送を実施しており、市が実施主体となり、バス事業者に運行管理を委託する形で、住民の皆様の足として利用いただいています。

また、自家用車活用事業については、観光関連団体がタクシー会社へ委託する形で、観光客のほか地域住民の移動手段として自家用車を活用して有償で運送を行う仕組みもあり、不足するタクシーの代わりとして、一般のドライバーにより移動手段の確保を図ることができる有効な手段の一つであると考えていますが、タクシー運賃より低い額の料金設定が可能であるため、既存のタクシー事業者への影響も懸念されます。そのため、導入に当たっては慎重を期す必要があると考えています。

利用料のキャッシュレス化について

問 大洲イノベーションセンターにおける利用料金のキャッシュレス対応及び利用予約の電子申請の導入について検討されているのか伺いたい。

答 当施設は、市内産業のDX推進を図ることを目的の一つとしていることから、当然キャッシュレス決済を導入すべきと考えています。市役所内でも、市民課や税務課の窓口において、住民票や納税証明書などの発行手数料の支払いに対し、10月を目標に導入を進めており、本施設もこれらの先行導入事例を参考にしながら、システムの早期導入に向けて協議を進めていきたいと考えています。

また、予約の電子申請については、現在企画情報課において導入に向けた準備を進めているところです。